

表3-2 新任期の状況と教育体制の概要

事例	C	D
所属県	千葉県	山梨県
受け持ち地区有無	有	有
大切と 思っ て いた こと	<ul style="list-style-type: none"> ・地区診断：既存資料からイメージできるよう情報収集、市町村保健婦とも健康問題を共有するため会話、1年終了時年間の地区活動計画書作成 ・個別のケースワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・前任者からの引き継ぎで挙げられていた健康課題を理解するため市町村事業に協力 ・市町村支援
指導保健婦有無	主任(12年目)	特に決まっていないが副主幹級保健婦が指示。プリセプター方式？
指導保健婦の指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦業務に関する主な相談 ・助言・指導を行う（訪問目的の確認、実施した内容や計画について助言、専門職としての判断について相談にのる） ・研修と一緒に参加 	
上司のかかわり方 <職位（職種）>	<p><婦長></p> <ul style="list-style-type: none"> ・同行訪問で、保健婦としての判断を提示 	<p><上司（保健婦）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別援助や事業計画を立てる時に目標、根拠、その効果を問う ・市町村支援について町村課題や資料のまとめ方を指摘 ・研修や担当地区外でも良い活動には参加を促す ・担当事業の進捗状況を確認 <p><精神保健相談員（保健婦）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・同行訪問の実施
意見交換の場の確保	事例検討会（所内保健婦の研修会が保障されていた）	<ul style="list-style-type: none"> ・課内会議で事例検討 ・定期的に管内業務連絡会（各町村の様子、ニーズから施策化に結びつける具体的方法の提示

表 3-3 新任期の状況と教育体制の概要

事例	E	F
所属県	山梨県	長野県
受け持ち地区有無	有?	有
大切と思って 行っていたこと	2年目に保健婦未設置村へ派遣 されて行った村保健婦活動	・保健所保健婦としての活動の 視点を現場で共に活動を通して 学ぶ
指導保健婦有無	有：前任の派遣保健婦年齢の近 い保健婦が相談に応じる	特に決まっていないが、先輩(ベ テラン)保健婦が何でも一緒に考 えてくれた
指導保健婦の指導方法		<前任者> ・家庭訪問に同行 <先輩保健婦> ・一緒に担当市町村を受け持つ ・地区内同行、関連機関に立ち 寄って連携の取り方を学ばせる
上司のかかわり方 <職位(職種)>	<課長(保健婦)> ・同行訪問の実施、訪問記録の 仕方を提示	<係長(保健婦)> 相談にのる
意見交換の場の確保		管内保健婦研修会(各自の問題 意に沿ったテーマを選定、意 見交換)

表3-4 新任期の状況と教育体制の概要

事例	G	H
所属県	石川県	滋賀県
受け持ち地区有無	有	有
大切と思って 行っていたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル事業として担当地区の老人実態調査の実施（全戸訪問して生活のありようを実感として把握） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区把握に市町村実施事業に入る ・個別のケースワーク
指導保健婦有無	無	無
指導保健婦の指導方法	<p><先輩保健婦></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別ケース、担当業務だけでなく日常の電話対応や起案の書き方等含めて助言 ・初め2～3回同行訪問の実施 ・「なぜこうしたのか」「どうしたかったのか」問いかける 	<p><先輩保健婦></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めの3ヶ月間同行訪問の実施 ・一緒に業務を担当し、業務の推進方法等について指導 ・担当市町村の指導の仕方を助言
上司のかかわり方 <職位（職種）>	<p><所長></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の行う健康教育の見学 ・起案文書等を通して公衆衛生的視点で助言 <p><婦長（保健婦）・課長（レントゲン技師）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・助言 	<p><係長（保健婦）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の業務、家庭訪問の報告を必ず行わせ、必要な判断は常に話し合っ共に行う ・担当業務の健康課題について整理してみるよう指示し、整理の仕方、専門職としての仕事の進め方を提示 <p><課長（栄養士）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・起案の書き方、事務処理方法等行政マンとしての必要な知識を教える
意見交換の場の確保	所内事例検討会	保健婦会議（業務の意見交換）

表 3-5 新任期の状況と教育体制の概要

事例	I	J
所属県	滋賀県	徳島県
受け持ち地区有無	有	有
大切と思って 行っていたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区把握：初めに担当地区の既存データから地区診断を行い冊子作成、市町村実施事業に入って生の情報を収集 ・ 個別のケースワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別のケースワーク ・ 担当地区での実践活動
指導保健婦有無	無	先輩保健婦（経験年数 6～7 年）
指導保健婦の指導方法	（印象なし）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問前に、目的の確認や具体的な指導方法について助言 ・ 健診の保健指導等実際を見ていて、助言
上司のかかわり方 <職位（職種）>	<p><主査（保健婦）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問目的の確認、報告を受けて専門職としての視点で助言 ・ 会議資料の提示について、相談にのり必要性和効果が示せるように助言したり、会議の運び方について助言 	<p><係長（保健婦）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問記録から、指導方法について助言 ・ 困難ケースの判断について、助言
意見交換の場の確保	課および係の定例ミーティング（お互いの業務の情報交換）	定例（月 1 回）所内事例検討会

表4 保健所保健婦としての能力開発に役立ったしごと

事例	仕事の内容	上司等のサポート内容
A	助産婦学校での教員の経験（達成目標と評価） 町との協同活動（リハビリ担当）	
B	県庁での他職種に保健婦の活動の説明 難病の実態調査から県の施策化への取り組み	施策化への資料作成方法
C	町との検診受診率アップにむけての活動。実態から問題点をだし改善点を出す町との協同活動	
D	難病実態調査（ニーズ把握、個別援助の効果の分析、まとめ）、	大学教官の助言
E	派遣時代の組織育成方法（保健婦活動そのものが組織活動なので）	サポートは得られなかった
F	運動処方と運動実施のための教育モデル事業（データの裏付けを得た運動処方、保健所内の他職種との協力方法）	
G	老人保健事業に基づく県のモデル事業（調査の設計、市町村への結果の返し方の検討） 保健所以外の勤務経験（ネットワーク拡大、必要性判断）	保健所長の公衆衛生的発想のよるアドバイス
H	管内在宅ケアシステムの構築（ケースからシステム開発し、市町村単独システム構築）	ビジョンを一緒に考える。情報提供。会議運営のアドバイス
I	在宅ケアシステムづくり（長期入院実態調査、データ化、会議の実施、住宅改造の検討、集いの実施、支える会の組織化）	調査項目設定・資料化へのアドバイス、所長の役割分担の意見、会議運営のアドバイス
J	健診業務の見直し（資料化、過去の仕事の整理、保健指導についての見直し） 結核業務を一人で担当することになったこと（行政の流れと保健婦の位置づけの明確化）	データの読みとり 他職種からのアドバイス

表5 保健所保健婦らしい仕事

事例	仕事の内容	レポートの内容
A	思春期事業（文献の収集、アンケートの集計）	
B	村を担当した地区活動（村の課長や住民と一体となった活動） 難病患者実態調査・難病相談事業（他職種を含め皆と一緒に実施・施策化予算化）	村の課長などに保健活動や保健婦活動の意識づけを行うことが必要 資料づくりの方法・保健婦として意見を明確しておくこと
C	痴呆老人家族会の組織化（市町村との協働事業、市保健婦との方向性の協議、まとめの実施） 三歳児健診での尿検査の検討（検査項目の検討のためのデータ解析、保健指導方法の検討） 0157 への保健所としての対応（防疫業務としての保健所業務を意識的・組織的に取り組んだ）	予算の確保 非常勤雇い上げの調整
D	市町村支援（市町村への課題の提示、市町村保健婦が自信をもつようなレポート）	
F	保健所保健婦は市町村とのパイプ役 運動処方事業（保健所が先駆的に事業に取り組み市町村に拡大） 三歳児健診後の遊びの教室（市町村保健婦・保母との協働事業） 1歳半健診後の遊ばせ方の教室（他職種との共同による発達の的確な判断） 精神障害者の共同作業所づくり（保健所の組織的な取り組み）	
G	町の痴呆老人への対策支援（町での他職種をまじえての勉強会、キーパーソンの巻き込み方）	
H	MRSA の患者の受け入れ体制づくり（全国の情報収集、研修会の企画、施設との調整）	
I	在宅ケアシステムづくり（長期入院患者の実態調査、住宅改造の取り組みの推進、住民への啓発）	調査項目設定・資料化へのアドバイス、所長の役割分担の意見、会議運営のアドバイス
J	健診業務の見直し（ 低体重児のシステムづくり（管外医師の参加会議の実施）	データの読みとり等 資料づくり

地域保健における保健婦の機能・役割
と資質向上に関する研究

発行日	平成10年3月
主任研究者	丸山美知子
発行所	国立公衆衛生院 公衆衛生看護学部